

「この人 06」

稲沢 進一 60歳 愛知県

八 木 俳句を始めたのは・・・？

稲 沢 十年あまり前のことです。
俳句雑誌への投句を試みました。本 阿弥書店の「俳壇」にも
投句して・・・めきめき上達。いろいろな先生にとってもらう
ようになりました。
ところが八木健選の微苦笑俳壇にはなかなか採用されない。
微苦笑俳壇に採用されるのが念願でしたから腐りましてね、
やめようかと思った頃、突然採用されだしたんです。

八 木 どうしたんでしょう 思い当たる節は？

稲 沢 今考えると、それまでまじめに作りすぎていたのです。
一歩引いて見るのがいい。目の前が開けました。

八 木 稲沢さんの滑稽句について周囲の方はどんな反応ですか

稲 沢 妻はわからない・・・と言います。
山歩きの仲間と俳句やっていますが、 その仲間もわからん、と
言います

八 木 世の中の俳句らしい俳句と違うからですね

稲 沢 別に無理にわかってもらう必要もないんですが(笑い)

八 木 滑稽をやるようになって、ご自身に変化はありましたか

稲 沢 ゆとりができましたね 会社でも一所懸命仕事しなくなりました。
そんなに頑張ってどうするんだと(笑い)
ゆとりができて、いいことに、将棋がうまくなりました。将棋は
守りが肝心なんですね。
滑稽句は、なにより精神衛生上よろしいと思っています

八 木 それでは代表句を・・・

稲 沢 熱爛や NO!と言へずに日本人
法師蟬言語明瞭意味不明
焼酎の水割ばかり出世せず

[稲沢進一氏の滑稽句はこちら](#)